

↓ 当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記の研究検査項目の受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [27043] 可溶性PD-L1 (sPD-L1)

受託開始日

- 平成29年8月1日(火)



可溶性PD-L1 (sPD-L1)

PD-1 (Programmed cell Death-1) は活性化したT細胞の表面に発現しているレセプターであり、PD-L1はそのリガンドです。PD-L1は腫瘍細胞に発現しており、PD-1にPD-L1が結合するとT細胞の活性および免疫機能が抑制されるため、近年ではこの免疫機能のブレーキを外す作用を持つ抗PD-1抗体などを用いた免疫チェックポイント阻害剤によるがん治療が行われてきています。

最近、腫瘍細胞から細胞外ドメイン部分が切断されて遊離し、血中に放出される可溶性PD-L1 (soluble PD-L1 : sPD-L1) が注目されています。

sPD-L1は細胞傷害性T細胞の疲弊の状態に関与すると考えられており、びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫 (DLBCL) や非小細胞肺癌、胃腺腫がんなどにおいて血中sPD-L1の発現量が高い症例では予後不良となるケースが多いという研究結果が発表されています。また多発性骨髄腫 (MM) のsPD-L1は一般に健常対照群より高値傾向にあり、その発現量は奏効率に相関するためMMのバイオマーカーとなる可能性を示唆する論文も発表されています。

さらに、慢性C型肝炎患者で高値傾向にあり、肝細胞がんへの進展例ではさらなる上昇が認められるという報告や、全身性強皮症 (Systemic Sclerosis : SSc) において皮膚硬化症の重症度と相関する可能性に関する報告もあり、今後の研究が期待されています。

検査要項

項目コード	27043
検査項目名	可溶性PD-L1 (sPD-L1)
検体量/保存方法	血清 0.3mL ^{*1} / 凍結 (-20℃以下)
検査方法	EIA
参考基準値	60.8 pg/mL 以下
検査頻度	月1回 (不定期) ^{*2}
検査実施料	未収載
備考	*1 : EDTA-2Na血漿も検査可。 *2 : 検査実施日は、弊社営業員にお問い合わせ下さい。

参考文献

- Zhou J, et al : Cancer Immunol Res 5 (6) : 480-492, 2017.
Wang L, et al : Oncotarget 6 (38) : 41228-41236, 2015.
Yamagiwa S, et al : Int J Med Sci 14 (5) : 403-411, 2017.